

2025年度テーマ：「弱さて繋がる」

体の中ではかよりも弱く見える部分が、かえって必要なのです。神は、見劣りする部分をいっそう引き立たせて、体を組み立てられました。

(コ林ントの信徒への手紙一 12章 22、24節後半)

「マリアは憐みを歌う」

踊 真一郎 牧師

マリアの賛歌「マグニフィカート」はユダヤの詩歌として、伝統的技法をふんだんに用いた歌と言われます。日本語の歌のようにリズム、韻を踏む技法もあるのですが、日本語に訳すとリズムや韻は分からなくなります。そこは残念ですが、翻訳しても対句や並行法は理解できます。簡単な説明で言えば、対句は前の言葉に対照的になる内容を語ることであり、並行法は同じ意味を違う言葉に置き換えたり、同じ流れを繰り返すものです。実際に今朝のテキスト、マリアの賛歌で確認してみましょう。

47 わたしの魂は主をあがめ、わたしの靈は救い主である神を喜びたたえます。

48 身分の低い、この主のはしためにも目を留めてくださったからです。

今から後、いつの世の人もわたしを幸いな者と言うでしょう。

49 力ある方がわたしに偉大なことをなさいましたから。

50 その憐みは代々に限りなく、主を畏れる者に及びます。

並行 47-50 節が一連、
51-55 節が二連というまとまりを構成し、対応する形式で書かれている。50 節「代々」と 55 節「とこしえ」も意味の並行。

51 主はその腕で力を振るい、思い上がる者を打ち散らし、

52 権力ある者をその座から引き降ろし、身分の低い者を高く上げ、

53 飢えた人を良い物で満たし、富める者を空腹のまま追い返されます。

54 その僕イスラエルを受け入れて、憐れみをお忘れになりません。

55 わたしたちの先祖におっしゃったとおり、アブラハムとその子孫に対してとこしえに。

対句 51 節で「神の力の行使」として民衆の救済と傲慢な者への叱責の対比が作られる。そのパターンが 52、53 節で繰り返される。

何が言いたいかと言うと、「マリアの賛歌はしっかりと作り込まれ、形の整った上手な詩」だということです。

しかし一点だけ、気持ちの悪い部分があるらしい。それが 55 節です。二連目で一貫していた対句のパターンが破られています。平たく言えば、「最後の最後で思い上がる者への永遠の裁きが語られない」のです。

日本バプテスト連盟

牧師:踊真一郎 教会主事:踊夢希 協力牧師:渡辺信一

〒830-0038 久留米市西町 851 TEL 0942-35-1960

ホームページ <http://www.bap-kurumechurch.jp/>

当教会は統一協会、エホバの証人、ものの塔、モルモン教、新天地、摂理、クオンバなどと一切関係ありません。

<定例集会のご案内>

☆ 毎週日曜日 午前 9:00-10:00 幼稚科・小学科教会学校

☆ 毎週日曜日 午前 10:30-11:30 主日礼拝

☆ 毎週水曜日 午後 8:00-9:30 聖書の学びと祈り会

☆ 毎週木曜日 午前 10:00-12:00 聖書の学びと祈り会

<附設幼稚園> めぐみのその幼稚園 0942-38-4848 (園長 丸田恵美)

ホームページ <http://www.meguminosono.net/>